

# 日本語用論学会

## 第16回（2013年度）大会プログラム

日時 2013年12月7日（土）／12月8日（日）

会場 慶應義塾大学三田校舎 第一校舎

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

電話：03-5427-1517

大学HP：<http://www.keio.ac.jp/index-jp.html>

アクセス：<http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>

- ・ 田町駅（JR山手線／JR京浜東北線）徒歩8分
- ・ 三田駅（都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線）徒歩7分
- ・ 赤羽橋駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩8分

### 大会スケジュール（要旨）・会場案内

#### 7日（土）

9:30～ 大会受付  
10:00～ ワークショップ・チュートリアル  
13:00～ 会員総会  
13:30～ 研究発表  
16:15～ 基調講演  
18:00～ 懇親会

#### 8日（日）

9:00～ 大会受付  
9:30～ 研究発表  
12:45～ ポスター発表  
14:30～ シンポジウム  
17:00～ 閉会式

大会受付 第1校舎1階 廊下（初日 9:30～ 大会終了まで）

書籍展示 第1校舎1階 108教室、110教室

休憩室 第1校舎1階 103教室、105教室

大会本部 第1校舎1階 107教室

昼食場所 当日配布のランチマップをご覧ください。

土曜日は学内の食堂が営業しておりますので、こちらもご利用ください。

12月7日(土曜日)

## ワークショップ (10:00~11:40)

### A会場 ワークショップ1 [109]

More thoughts on 'clause' from a historical-pragmatic perspective

Convener: SHIBASAKI, Reijirou (Meiji University)

1. More thoughts on stand-alone *because*-clauses from a historical-pragmatic perspective  
HIGASHIIZUMI, Yuko (Tokyo Gakugei University)
2. From parenthetical to main clause: Rethinking the directions of change with a focus on *the problem is* in the history of English  
SHIBASAKI, Reijirou (Meiji University)
3. "Exist exist": Predicates as reactive tokens in Japanese conversation  
SUZUKI, Ryoko (Keio University)

### B会場 ワークショップ2 [111]

言語人類学とエスノグラフィー

司会：武黒麻紀子（早稲田大学）

1. 協働学習における学びのダイナミクス  
津田ひろみ（明治大学）
2. 「合衆国」な石垣島での相互行為と社会関係  
武黒麻紀子（早稲田大学）
3. フィジーにおける神話のスタイルシフトと文化変容  
浅井優一（日本学術振興会）

### C会場 ワークショップ3 [101]

疑問文の語用論

司会：加藤重広（北海道大学）

1. 疑いの疑問文の弱い問いかけ性について —語用論的観点から  
馬 穎端（北海道大学大学院）
2. 疑問詞疑問を引用する表現  
山泉 実（東京外国語大学非常勤）
3. 広告における疑問文に関する語用論的考察  
呂 晶（北海道大学大学院）

### D会場 ワークショップ4 [102]

メタ表示と語用論

司会：東森 勲（龍谷大学）

1. 条件文とメタ表示をめぐって  
中島信夫（甲南大学）
2. 否定とメタ表示をめぐって  
五十嵐海理（龍谷大学）
3. 英語ジョークとメタ表示をめぐって  
東森 勲（龍谷大学）

## チュートリアル (10:00~12:00) E会場 [104]

「会話分析」

講師：西阪 仰（明治学院大学）

\*会話分析の基礎を実際的に学びます。

受講は無料ですが、事前申し込みが必要です。

11ページのチュートリアルの案内をご覧ください。

## 開会式・総会 (13:00~13:20) [北館ホール]

司会：山本英一（関西大学）

- |            |                |
|------------|----------------|
| 1. 会長挨拶    | 林 宅男（桃山学院大学）   |
| 2. 会計報告    | 長友俊一郎（関西外国語大学） |
| 3. 編集委員会報告 | 山口治彦（神戸市外国語大学） |
| 4. 事務局長報告  | 山本英一（関西大学）     |

## 研究発表 (13:30~16:05)

### A 会場 [109] 英語発表

- ① 13:30-14:05      ② 14:10-14:45      ③ 14:50-15:25      ④ 15:30-16:05

Chair: KOYAMA, Tetsuharu (Kyoto Notre Dame University)

1. Doing Leadership: An Analysis of Gendered Discourse in Business Meetings in Taiwan  
TUAN, Jeanne H. (Shu-te University)  
YAO, Huimei (Penghu University)  
ICHIHARA, Tsuneo (Shu-te University)
2. Identity shift, and learning to use terminology at conversation analytic data sessions in Japan  
BUSHNELL, Cade (University of Tsukuba)  
Chair: NOZAWA, Hajime (Kyoto University of Foreign Studies)
3. Questions as interactive and embodied reminders during collaborative remembering  
BIETTI, Lucas (Telecom ParisTech)

### B 会場 [111] 英語発表

- ① 13:30-14:05      ② 14:10-14:45      ③ 14:50-15:25      ④ 15:30-16:05

Chair: IGARASHI, Kairi (Ryukoku University)

1. The conventionality of pragmatic inference in noteworthy comparison  
SAWADA, Osamu (Mie University)
2. A Cognitive-Pragmatic Study on Metaphor: an Inquiry into Systematic Mappings and Processing Effort  
MAO, Junling (MinJiang University)  
Chair: ONODERA, Noriko (Aoyama Gakuin University)
3. L2 Cantonese Chinese Request Strategies and Proficiency of Pakistani Preschool Children in Hong Kong  
WONG, Yuen-Fan Lornita (Hong Kong Institute of Education)  
LEUNG, Cheung-Shing Sam (Hong Kong Institute of Education)

### C会場 [101] 日本語発表

① 13:30-14:05      ② 14:10-14:45      ③ 14:50-15:25      ④ 15:30-16:05

司会：山岡政紀（創価大学）

1. 「力関係」からみた断りにおける {不可} 意味公式の使用と形式 —日本語母語話者とロシア人日本語学習者の場合—  
ブラーエヴァ, マリア（名古屋大学）
2. 指示・命令遂行時の言語形式選択における R 値と授受形式の役割について  
横倉真弥（名古屋大学大学院博士研究員）

司会：澤田治美（関西外国語大学）

3. 疑問文に生起する英語認識的法助動詞の容認可能性について      眞田敬介（札幌学院大学）
4. 英語法副詞のモダリティと（間）主観性 —話し手の捉え方と言語行為の観点から—  
岡本芳和（金沢星稜大学）

### D会場 [102] 日本語発表

① 13:30-14:05      ② 14:10-14:45      ③ 14:50-15:25      ④ 15:30-16:05

司会：北野浩章（愛知教育大学）

1. 日本語とマレーシア語の対照会話分析 —あいづちの観点から—  
勝田順子（名古屋大学大学院）
2. 中国語自然会話における卑語形式選択における世代差及び卑語の用論的機能  
WANG, Dandan（九州大学大学院）

司会：鈴木光代（東京女子医科大学）

3. 文副詞 contrary to 句の表意      黒川尚彦（大阪工業大学）
4. 談話標識 okay の機能的意味      西川真由美（摂南大学）

### E会場 [104] 日本語発表

① 13:30-14:05      ② 14:10-14:45      ③ 14:50-15:25      ④ 15:30-16:05

司会：名嶋義直（東北大学）

1. 推理小説の文体分析 —関連性理論の観点から—      中村秩祥子（神戸大学大学院）
2. 会話文における主語省略を制限する要因についての考察      付 改華（新潟大学大学院）

司会：尾谷正則（法政大学）

3. 談話標識「というか」の統語語用論的分析      劉 曉萃（北海道大学大学院）
4. 終助詞「かな」の語用論的特徴 —「疑念」「ぼかし」「非難」の違い—  
中西久実子（京都外国語大学）

**基調講演 (16:15~17:45) [北館ホール]**

司会：堀江 薫 (名古屋大学)

講演者： Professor Mira Ariel (Tel Aviv University)

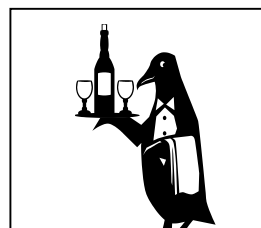
講演題目： “Pragmatic meanings: Beyond implicatures”

**懇親会 (18:00~20:00)**

会場：南校舎4階・カフェテリア

会費：学生 3,000円、一般 4,000円

(交流と議論の場です。お一人でもご遠慮なく。)



**12月8日 (日曜日)**

**研究発表 (9:30~12:40)**

**A会場 [109] 英語発表**

① 9:30-10:05

② 10:10-10:45

③ 10:50-11:25

④ 11:30-12:05

Chair: KANAMARU, Toshiyuki (Kyoto University)

1. The Dolichologic Discourse Marker Okay: Adumbrating an Extended Turn in Interaction

O'NEAL, George (Niigata University)

2. Two competitive factors influencing the production of descriptive texts

YAMADA, Yoko (Kansai Gaidai University)

Chair: YAMAGUCHI, Haruhiko (Kobe City University of Foreign Studies)

3. On the development of sentence final *kke* in Japanese

TAMAJI, Mizuho (Hong Kong Polytechnic University)

KAWANISHI, Yumiko (UCLA)

YAP, Foong Ha (Hong Kong Polytechnic University)

4. Functional Analysis of Japanese Passives

IMAMURA, Satoshi (University of Oxford)

HELGASON, Einar Andreas (Tohoku University)

KOIZUMI, Masatoshi (Tohoku University)

## B会場 [111] 英語発表

- ① 9:30-10:05      ② 10:10-10:45      ③ 10:50-11:25      ④ 11:30-12:05

Chair: IDE, Risako (University of Tsukuba)

1. Conversational Style and Local Identity: a Study of Hawai'i *Talk Story* UENO, Ryoko (Keio University)
2. Pragmatic development of Japanese learners: A ten-month's longitudinal study of request  
BEUCKMANN, Fusako (The University of Tokyo)

Chair: NABESHIMA, Kojiro (Kansai University)

3. The building blocks of Tone-of-voice CAMPANA, Mark (Kobe City University of Foreign Studies)
4. The Impact of the Changing roles of Colors and Color Codability on Reference Production: Evidences from a narrative discourse in Malayalam  
SURESH, Rinu (Nambiar International Institute of Information Technology)

## C会場 [101] 日本語発表

- ① 9:30-10:05      ② 10:10-10:45      ③ 10:50-11:25      ④ 11:30-12:05      ⑤ 12:05-12:40

司会：滝浦真人（放送大学）

1. ポライトネス理論における話し手の自己フェイスに関する一考察  
大塚生子（近畿大学）・谷 智子（三重大学）
2. 現代の茶席の会話における「気遣い」談話の質的分析 —ディスコース・ポライトネス理論の観点から—  
TSOY, Ekaterina（東京外国語大学）
3. 不一致に対処する修復についての一考察 —不同意の顕在化と修復のプロセス—  
張 玲玲（北海道大学大学院）

司会：高木佐知子（大阪府立大学）

4. 起業コンサルティング会話における「知識の非対称」と「意向」：コンサルタントの「質問」を中心に  
臼田泰如（京都大学大学院生）・高梨克也（京都大学学術情報メディアセンター）
5. インターネットにおける放射能リスク情報の分析  
川田拓也・鳥澤健太郎・大竹清敬（独立行政法人情報通信研究機構）

## D会場 [102] 日本語発表

- ① 9:30-10:05      ② 10:10-10:45      ③ 10:50-11:25      ④ 11:30-12:05      ⑤ 12:05-12:40

司会：西田光一（下関市立大学）

1. 英語における「家族」のカテゴリー形成：true, real をてがかりに 山田仁子（徳島大学）
2. “文化的”反義語の試案：第4のカテゴリーとして 山田政通（拓殖大学）

司会：森 雄一（成蹊大学）

3. 日本語指示詞の談話直示用法 JING, Zeng (Shanghai International Studies University)
4. くびき語法の再考察 —メタファー理論の観点から 望月雄大（関西大学大学院）
5. 論証的ポリフォニー理論による緩叙法・婉曲語法の分析 大久保朝憲（関西大学）

## E 会場 [104] 日本語発表

① 9:30-10:05

② 10:10-10:45

③ 10:50-11:25

④ 11:30-12:05

司会：三宅知宏（鶴見大学）

1. 「のだ文」を用いた日本語母語話者の伝達方略 —話し言葉コーパスの分析に基づいて—  
市村葉子（名古屋大学大学院生）・堀江 薫（名古屋大学）
2. 授受動詞「もらう」の補助動詞的用法の考察 —話者の受益結果とプロセス—  
関根和枝（河南大学）

司会：本多 啓（神戸市外国語大学）

3. 「菊池さんはまんがだ」をどう解釈するか：解釈のメカニズムとコンテキストの要因  
吉田 愛（立教大学／日本女子大学非常勤）
4. 中間構文における語用論的機能について  
保科俊輔（札幌大学大学院）

## ポスター発表（12:45～14:25） [1階ロビー]

1. 「てやる」と「ecwuta（テヤル）」の意味機能と文法化 韓 京娥（釜山大学非常勤）
2. 対話におけるメタファーの連鎖パターン —対話相手の反応に現れるメタファーに注目して—  
杉本 巧（広島国際大学）
3. 日中英語話者の事態認識の違いと移動表現 HE, Jingjing（札幌大学大学院）
4. Process-product Research into EFL Classroom Practice and Its Effects on Learners' Development of Sociolinguistic Competence YU, Ming-chung (National Chengchi University)
5. 批判的談話分析からみた大学生のメディア・リテラシー —新聞コラムに対する論述の分析をもとに—  
柳田亮吾（大手前大学非常勤）
6. 前提のキャンセルから生じる修辭的效果 小松原哲太（京都大学大学院／日本学術振興会）
7. 発話行為としての「助言」—その定義を試みる— 高橋千代枝（名古屋商科大学非常勤）
8. 「視座・注視点」と「自分」の照応関係 汪 宇（東京福祉大学）
9. 不同意の発話行為における「やわらげ」—日本人母語話者とタイ人日本語学習者の対照を中心に—  
SENA, Khwanchira (National Institute of Development Administration, Thailand)
10. 医師の言語行動の日中対照研究 —実際の医療会話を中心に— 王 建波（九州大学大学院）
11. 視点の切り替えと認識の相対性 —“転喻”としての移動・変化・時間表現の考察—  
大神雄一郎（大阪大学大学院）
12. 多様なメトニミーとその機能 山本幸一（愛知県立松平高等学校）
13. 因果関係を表す接続詞の日仏語比較  
木山直毅（大阪大学大学院）・濱上桂菜（大阪大学大学院）

シンポジウム (14:30~17:00) [ 北館ホール ]

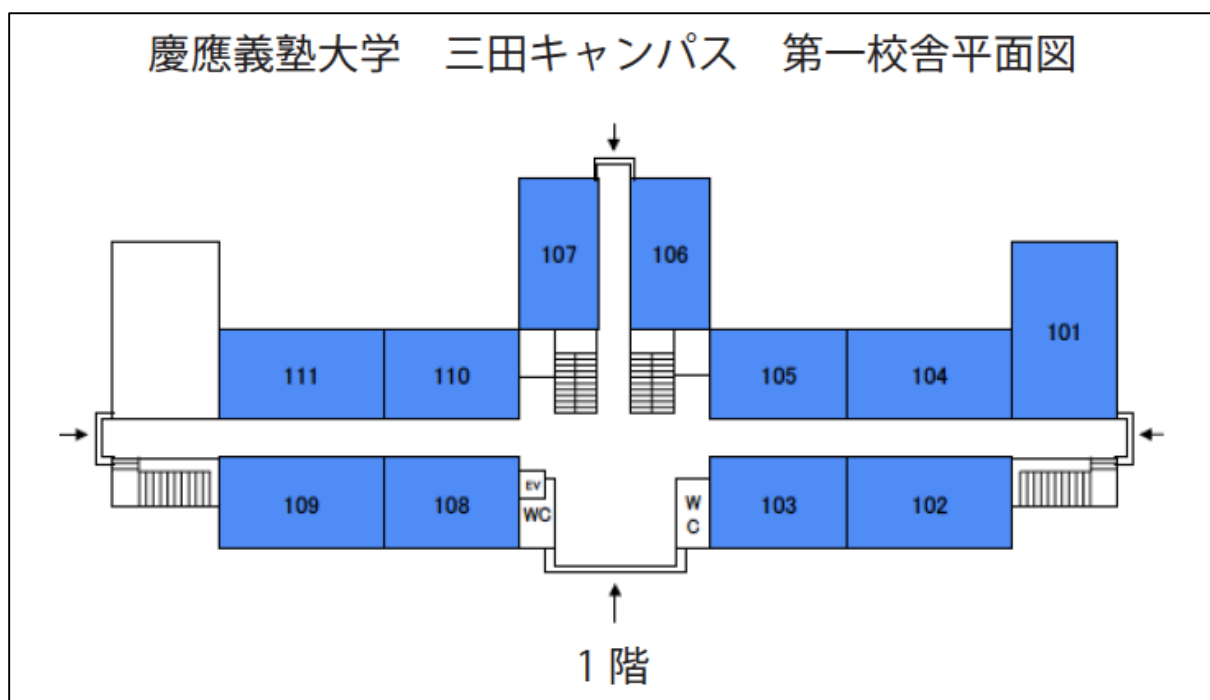
テーマ： “Implicature”  
講師： 田中廣明 (京都工芸繊維大学)  
講師： 吉村あき子 (奈良女子大学)  
講師： 松井智子 (東京学芸大学)  
指定討論者： Professor Mira Ariel (Tel Aviv University)  
司会： SCHOURUP, Lawrence (大阪府立大学)

閉会式 (17:00~17:10) [ 北館ホール ]

閉会の挨拶

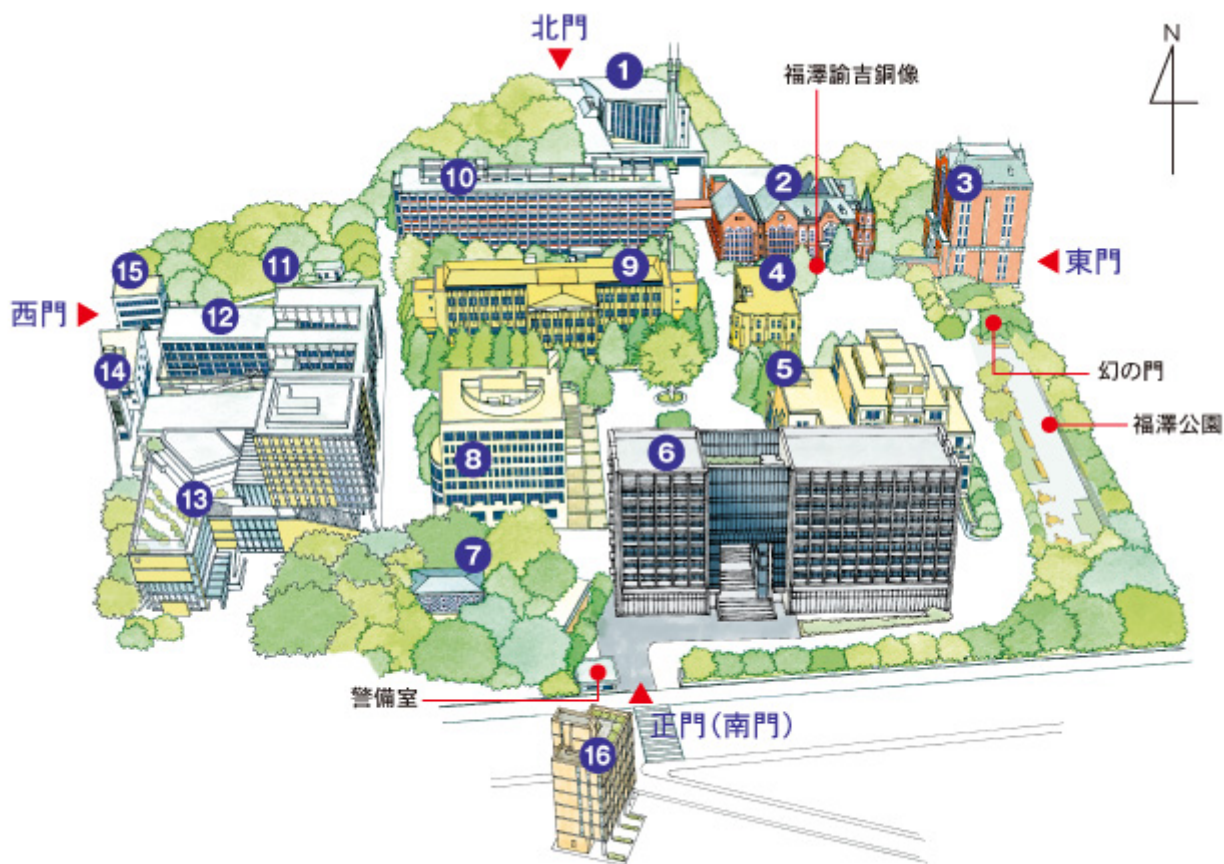
東森 勲 (副会長・龍谷大学)

会場平面図



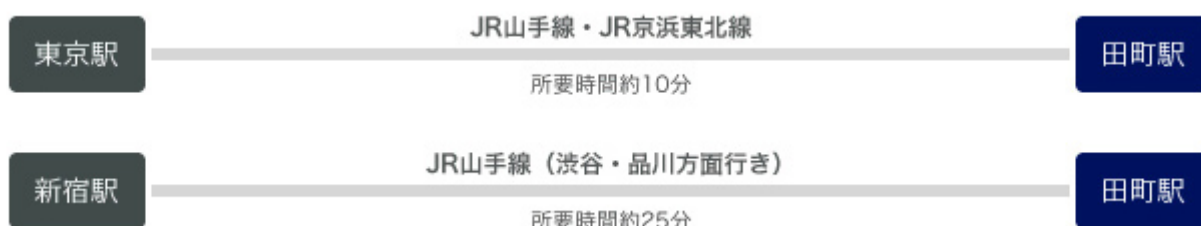


# キャンパスマップ



【1】北館：大会議室、 ホール、ファカルティ クラブ	【2】図書館旧館：大会議 室、小会議室	【3】東館：ホール、G-SEC Lab
【4】塾監局	【5】図書館	【6】南校舎：411-477、 ホール、 ザ・カフェテリア
【7】三田演説館	【8】大学院校舎：311-375B	【9】第1校舎：101-147、外 国語教育研究センター
【10】研究室棟	【11】労働組合本部	【12】西校舎：501-545、 ホール、山食、 学生食堂（生協）
【13】南館：2B11-2B42	【14】生協購買部	【15】西館
【16】南別館：アート・ スペース		

## 主要駅からのアクセス



## 空港からのアクセス



各空港から首都圏の主要箇所へリムジンバスを利用することも可能です。詳しくは以下のウェブサイトをご参照ください。

羽田空港：[http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/access/bus/according\\_to\\_direction.html](http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/access/bus/according_to_direction.html)

成田空港：<http://www.narita-airport.jp/jp/access/bus/index.html>

## 日本語用論学会チュートリアルのお知らせ

チュートリアル題目： 会話分析

講師： 西阪 仰 (明治学院大学教授)

期 日： 2013年12月7日 (土) 10:00~12:00

受講費： 無料

(但し、語用論学会参加登録は必要です。学会参加費は会員 2,000 円、非会員 3,000 円。)

参加者定員： 16名

申し込み方法： katosige@let.hokudai.ac.jp へてに、(1) 氏名 (よみがなも)、(2) 所属 (学部生・院生は学年も)、(3) 研究テーマ を記して、電子メールで申し込んでください。その際、メールのタイトル (subject) を「語用論学会チュートリアル申し込み」としてください。

申込期間： 2013年11月20日 (水) 24時まで

注意： 原則として語用論学会会員を申し込み順で受け付けます。

また、西阪先生の講習会などをこれまで未受講の方を優先とします。

申込期間中でも、定員を超えた場合は、申し込み受け付けは終了します。

受講者には別途連絡します。当日は9:50までに受付を済ませて、会場にお越しください。遅刻すると受講できないことがあります。

受講日までに『会話分析基本論集：順番交替と修復の組織』(H. サックス、E.A. シェグロフ、G. ジェファソン著、西阪 仰訳、2010、世界思想社) を読んでおくようにしてください。

## 特別講演会のお知らせ

日 時： 2013年12月9日 (月) 10:30~12:00

場 所： 早稲田大学早稲田キャンパス8号館408教室

講演者： ミラ・アリエル教授 (テルアビブ大学) Professor Mira Ariel (Tel Aviv University)

演 題： 『意味論と語用論』 “Semantics and Pragmatics”

参加費： 無料。どなたでも参加できます。当日、会場にお越しください。

主 催： 早稲田大学法学学術院 (問合せ：首藤研究室 shudo@waseda.jp)

大会開催委員

大会運営委員：	久保 進 (松山大学)	小山哲春 (京都ノートルダム女子大学)
	鈴木光代 (東京女子医科大学)	加藤重広 (北海道大学)
	澤田治美 (関西外国語大学)	西光義弘 (神戸大学名誉教授)
	滝浦真人 (放送大学)	名嶋義直 (東北大学)
	林 礼子 (甲南女子大学)	長友俊一郎 (関西外国語大学)
	野澤 元 (京都外国語大学)	金丸敏幸 (京都大学)
	岡本雅史 (立命館大学)	堀江 薫 (名古屋大学)
	西田光一 (下関市立大学)	山岡政紀 (創価大学)
	尾谷昌則 (法政大学)	北野浩章 (愛知教育大学)
	森山卓郎 (早稲田大学)	高木佐知子 (大阪府立大学)

日本語用論学会会長 林 宅男 (桃山学院大学)

事務局長：〒564-8680 吹田市山手町3丁目3番35号 関西大学 山本英一 研究室内

E-mail: secretary@pragmatics.gr.jp